



遠回りの先に

「それから彼らは、アジアでみことばを語ることが聖霊によって禁じられたので…マケドニアに渡ることにした」

(使徒の働き 16 章 6 節、10 節)

福音宣教は、弟子たちが聖霊を受け、エルサレムからユダヤ、サマリア、シリアへ、東から西へと進んでいきました。次はアジア（現在のトルコ西部）へ行き、さらに西へ宣教を進めようとパウロたちは計画していました。アジアは人口も多く、すでにキリストを信じたユダヤ人もいて、会堂もありました。どう考えても、それが御心のように思えます。しかし、なんと聖霊はアジア宣教を禁じられたのです。

「聖霊が伝道を禁じることがあるの？」と思われるかもしれません。パウロたちもその時は理由が分かりませんでした。彼らは北へ迂回し、さらに幻を見て海を渡り、マケドニア宣教に向かいました。そこで多くの魂が救われ、ピリピなどの教会が建て上げられました。その後、パウロたちはついにアジア宣教へ導かれていきます。遠回りで、困難な道でした。しかし主は、マケドニアで救われる魂を先に起こした後、パウロたちが願っていたアジアでの宣教を進められたのです。主の時があり、主の道があったのです。

日本の宣教の歴史も似ています。第二次世界大戦後、多くの宣教師が中国を目指しましたが、内戦や共産化により、日本宣教へと切り替えました。その結果、日本で多くの教会が開拓され、救われる魂も起こされていきました。しかし、その後、主は長年祈られてきた中国でリバイバルを起こされました。

私たちの伝道にも、遠回りを体験する時があるのではないのでしょうか。「家族に救われてほしい」「友人を教会に誘

いたい」と祈り続けても思うように進まないことがあります。しかし、祈りが無駄になっているわけではありません。パウロたちがそうであったように、私たちが主に祈り、従い、福音を伝え続けていくなら、遠回りの先に、主が必ず扉を開いてくださることを信じます。

妻は小学生の時に母親に続いて救われましたが、家族伝道はなかなか進みませんでした。しかし、コロナ禍中に妻の祖母が救われ、今春、妻の父も受洗しました。30 年以上にわたる妻と義母、多くの方々の祈りに、主は応えてくださいました。

コロナ禍も、私たちが体験した一つの遠回りでした。「コロナ禍がなければ、宣教も教会成長も進んだのに…」と思われるかもしれません。しかし昨年からは Go to ミッションのメッセンジャーとして各地を回る中で「コロナ禍でストップした伝道集会を、Go to ミッションを通して再開できた」と、多くの教会で伺いました。主は祈りに応え、各集会に新しい方々を導き、救われる方々を起こしてくださっています。

閉ざされているように思われても、諦めずに、家族、友人、そして日本の救いを祈り続けましょう。主は遠回りの先に、素晴らしい景色を用意して下さっています！

小山健

リバイバルミッション協力伝道者
岐阜純福音教会主任牧師



レポート 次世代ユニブルキャンプ@韓国

2026.7.28-31

昨年に引き続き、韓国で開催された、次世代を担う 10～20 代を対象とした「ユニブルキャンプ」に、日本から14名と引率者2名が参加しました。韓国をはじめ、ロシア、ウズベキスタン、カザフスタンなど旧ソ連諸国に暮らす朝鮮民族系の「高麗人」の方々や、北朝鮮出身者、そして日本からの参加者が一堂に会しました。普段はなかなか交わる機会のない者同士、さらに言葉という大きな壁もありましたが、同じ主を信じる者として心をつにし、共に礼拝し、交わり、祈る、素晴らしい時間となりました。

◆参加者の声

7月に韓国で行われた次世代のクリスチャン向け「ユニブルキャンプ」に、引率者として参加させていただきました。キャンプでは若者たちが国を超えて一つになり、全身全霊で主を賛美し、礼拝する姿を見て、成長過程にある存在としてだけでなく、彼らにしかできないこと、彼らから学ぶべきことがあると教えられました。また、そんな子どもたちの姿だけでなく、スタッフの方々の仕える姿にも励まされました。キャンプに至るまでの苦難、葛藤したお話も聞かせていただき、祝福に満ちた一面の他に、支える人たちの愛、とりなし、戦いがあったことを覚えます。キャンプでは、イザヤ書 58 章 12 節から「bridge builder」がテーマとして掲げられましたが、すべての参加者、スタッフ、そして私自身も「bridge builder」として主から託されたものを受け取ることができたと思います。今回のキャンプは、多くの方の霊的な、現実的な支えなくしてはできなかったことを覚え、心から感謝いたします。新城教会スタッフ 菊池卓央



◆高麗人の少年へのインタビュー

- Q. 日本人にこれまで会ったことはありましたか？
A. 一度もありませんでした。
Q. 日本にどんなイメージを持っていましたか？
A. 日帝時代の悪いイメージがありました。
Q. 今回日本人に会って変化はありましたか？
A. 今回一緒に礼拝したり、賛美したり、遊んだり、プールで泳いだりして、とても楽しかったです。イメージが変わりました。
Q. 日本の友達が出来ましたか？
A. 日本の友達が3人出来ました。
Q. いつか日本に来たいですか？
A. 行ってみたいです。
Q. あなたが住んでいる場所はどこですか？
A. 韓国に来る前はウズベキスタンに住んでいましたが、現在はチョンジュです。

◆北朝鮮出身の方へのインタビュー

- Q. 今回のキャンプはいかがでしたか？
A. 初めて日本人に会ってたくさん友達が出来た、一緒に賛美をしたり、プールで遊ぶことが出来て楽しかった。
Q. いつか日本に来たいですか？
A. また日本へ行ってみたいです。
Q. 何が1番良かったか？
A. 日本の子たちとたくさん話げできたことが幸せだった。

レポート オープンザゲート モンゴルツアー

2026.8.15-22

8月15日～22日、「オープンザゲートモンゴルツアー2026」が開催されました。日本から20名、ハワイから1名、韓国から4名が参加し、ウランバートルとツェツェルレグを訪問しました。ムンフ師の牧会する New Life 教会での礼拝や伝道集会、賛美や交わりを通して、モンゴルの皆さんと共に主を礼拝し、福音を分かち合う恵まれた一週間となりました。また、今回のために滝元順師が特別に執筆したモンゴル語のトラクトと、モンゴル語に翻訳された滝元明師著『平安を持つ秘訣』を届けることもできました。今回のツアーは、モンゴルへの宣教にとどまらず、今後、ロシアや中央アジア、ウイグル地区、北朝鮮などへと福音を届ける働きへ広がっていく可能性を持つ、重要なミッションツアーとなりました。国境や言葉を越えて、主が新たな宣教の扉を開いてくださることを期待しつつ、モンゴルの救いと教会の前進、宣教の働きのために祈りください。

参加者の声

モンゴルの地を移動しながら、果てなく続く草原の景色の中にも、一つ一つ異なる美しさがあることに心を奪われました。自由に草を食む羊や馬、ラクダやヤク、空高く飛ぶ鷺、草原に広がる花々、満天の星、空気、匂いなど肌で感じた世界は、小さな携帯画面からは決して味わえない命に溢れた世界でした。また主が創造された被造物たちと人々が共生している麗しさに感動し、もっと自由に、神が造られた人として、主の御心と使命に生きていきたいと強く思われました。蓮池光世（韓国在住）



私は特に「ツェツェルレグ」での伝道集会が恵まれました。私たちのトラクト配布と路傍伝道が用いられ、主を知らない多くの方が主の恵みのメッセージを聴き、皆立ち上がりその恵みを受け取る祈りに導かれる姿を見ました。また集会後には皆で、ここに教会が建て上げられモンゴルの西側への宣教の拠点となり、さらに福音宣教が広がるようにと祈りが導かれました。神さまの偉大なご計画の一端を見せていただき、その一部を担わせていただき、非常に感謝しています。瀧元光太（日本在住）

今回のツアー参加のきっかけは、何となく新城礼拝の YouTube を見ていたら、順先生が「モンゴル行きます!!」と話していて、「あ、呼ばれた」と確信しました。でも、何をするのか、なぜ行くのかは分からないままの出発でした。2日目の夜、先生のメッセージを通して、その土地に手を置いて祈り、悪霊の支配下にある土地を回復し、それを宣言することを学びました。聖霊様に語られ、震えました。自分がここにきた意味が、やっと分かった気がしました。トラクト配布中、知らずに警察署の前を通り写真を撮られるというハプニングも😅 まだまだチャレンジのあるモンゴル宣教。でも、ジーザスが導く方へ、また行きたいと思います！
みこ・ザビエル（ハワイ在住）



Pray for . . .

第二次世界大戦時、オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州カウラで起こった日本軍捕虜脱走事件として知られるカウラ事件。現地へとりなしの祈りと向かった SIR 代表の瀧元望氏に今回も伺いました。

「恥」を捨て、死からいのちへ

この夏、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州の人口 9000 人ほどの町、カウラにとりなしのために行くことが許されました。8月5日午前1時45分、かつて日本人捕虜収容所があった野原に立ち、月明かりと満天の星の下で、カウラ町のマイケル牧師、とりなし手のマリーさんと共にとりなし祈ることができました。

1944年、戦争も末期に近づいた8月、約1100名いた日本人捕虜が別の収容所に移送されることに対する不満が募り、捕虜たちの間で「大脱走」の計画が話し合われるようになりました。そして、8月5日午前1時45分、カウラ収容所捕虜第一号である豊島一が突撃ラッパを吹き鳴らし、入院者などを除く約900名が脱走を企てました。

武器は食事の時に出されたナイフやフォークを研いだものや野球バットのみでしたが、監視塔とその塀を乗り越えようと押し寄せました。威嚇射撃も功を奏さず、銃撃が加えられ、結果、日本兵231名、オーストラリア兵4名が死亡しました。銃撃によって倒れたのみならず、自らの命を絶つ兵士もいました。

「生きて虜囚の辱めを受けず」（東條英機が示訓した「戦陣訓」）という言葉に縛られていた兵士たちは、捕虜として生きていくことを耐えがたい「恥」と感じ、「玉砕」（全員が突撃して死んでいくこと）覚悟の脱走でした。

捕虜たちは、本国に自分の名前が伝えられることを恐れ、ほとんどが偽名を使っており、突撃ラッパを吹いた豊島一は、南忠男として、オーストラリア政府によって日本人墓地に葬られています。

実際に、太平洋戦争中、捕虜となったことが本国に伝わるとその家族は、激しい非難と中傷の的になったことが報告されています。

この事件に関しては、皇室も大きな関心を寄せており、明仁上皇夫妻も皇太子時代に、秋篠宮、黒田清子さんもそれぞれ慰霊のために訪れています。

今年も5日午前には、日本人墓地で82周年追悼式がオーストラリア政府によって開かれ、日本領事をはじめ、オーストラリア在住の日本人を加え、100名ほどの人々が集まりました。

オーストラリアの内陸にある（シドニーから300キロ、キャンベラから約200キロ）町、カウラは、多くの課題を背負っている寂れた感じがする町でした。とりなしに同行して下さったマイケル牧師の教会（IGNITE CHURCH）は、アルコール中毒者と薬物依存者のためのミニストリーをしており、その働きからも町が背負っている課題を理解できます。

カウラで命を落とした兵士たちが靖国神社、護国神社で神々となって人々から拝まれていることや偽名を用いてカウラで葬られていることなどをマイケル牧師達に伝え、そのことがカウラの町に霊的な悪い影響を及ぼしていると受け取っておられました。

小さな町で起きた小さな出来事。しかし、それは、意外と霊的には大きな意味を持つ課題を含んでいると感じます。

今も、祖先崇拝を通して、死に繋がれている日本人の心の中に、「恥」という福音を遠ざけていく暗闇があることを思います。

主イエス様の光をそこに掲げていくとりなしが必要だと信じます。



瀧元望

SIR ネットワーク代表

9月～新期スタート！！お得な年間受講受付中！



霊的戦い、専門課程

第15期

第15期Vol.1

ハイブリッド開催

9月28日[月]ー29日[火]

講師／滝元順、末宗宣行、瀧川充彦、鈴木陽介、ほか

受講料／8,800円[1回10セッション]

宿泊・食事代(1泊2食・朝軽食付)5,500円

◎年間受講料／79,200円：10回100セッション

※配信は15期終了2027年9月末まで視聴可能

※会場での受講者も配信を視聴することができます。

※配信開始予定日：10月12日

1回分がお得

スケジュール

9月28日[月]

13:30～受付

14:00～15:30セッション①②

15:40～17:10セッション③④

17:30～夕食

19:00～20:30研究発表・交わり

9月29日[火]

9:00～10:30セッション⑤⑥

10:40～12:10セッション⑦⑧

12:10～昼食

13:00～14:30セッション⑨⑩

会場／リバイバルミッションセンター

9月から開講する「霊的戦い専門課程」は、いよいよ15年目を迎えます！

1993年に開催された「甲子園ミッション」を契機として、私たちは「霊的戦い」というテーマに取り組んできました。

霊的戦いは、リバイバルと宣教を進めるうえで欠かすことのできない重要なテーマです。

しかしその一方で、聖書的・歴史的・実践的な研究が、まだ十分になされていない分野でもあります。

リバイバルミッションでは、これまで日本各地、そして世界各地で開催してきたミッションの実践から得られた経験と、リバイバル聖書神学校時代から蓄積してきた学びや資料を整理・研究し、「霊的戦い専門課程」に集約してきました。

そして毎年、新たな情報と研究成果を加えながら、内容をアップデートしています。

さらに昨年度からは、AIによる情報整理・比較・分析も積極的に活用。膨大な資料や歴史的事例を多角的に検討することで、これまで見えなかった新たな視点も加わり、霊的戦いの研究はさらに深まりつつあります。

毎回、「目からうろこ」の発見がある霊的戦い専門課程。15年目となる今年、

どのような新しい扉が開かれるのでしょうか。ぜひ一緒に学びましょう。

皆さまの受講を心よりおすすめします。

第15期日程

vol.2◎配信のみ

vol.3◎11月23日(月)～24日(火)※ハイブリッド開催

vol.4◎1月25日(月)～26日(火)※ハイブリッド開催

vol.5◎配信のみ

vol.6◎3月29日(月)～30日(火)※ハイブリッド開催

vol.7◎配信のみ

vol.8◎5月24日(月)～25日(火)※ハイブリッド開催

vol.9◎配信のみ

vol.10◎7月26日(月)～27日(火)※ハイブリッド開催

◆ハイブリッド開催は会場での受講があります。またスケジュールは変更することがあります。



Zoom de フェロシップ

どのZoomも参加は無料です。事前にお申し込みいただくとメールにてIDバースコードをお知らせいたします。毎回でなくても参加出来ます！

神学校OBフェロシップ

リバイバル聖書神学校出身者の方々のためのフェロシップ

です。卒業修了生のみなさまのご参加お待ちしております！



今回は

9月22日[火]20:00～

◎MC／田中進・平岡新人

●リバイバル神学校の卒業生たちが、月に一度Zoomで集まり、フェロシップの時を持っています。それぞれの近況や課題、祈りの必要を分かち合い、互いのために心を合わせて熱く祈っています。卒業後も祈りによってつながり、励まし合えることは大変大きな恵みです。これからも共に主の御業を期待し、日本のリバイバルのために祈り続けていきます。

2026 Goto Mission

目前の畑は色づいています。お祈りください！

9月開催教会 甲信地区

講師／小山健 ●音楽ゲスト／石塚誠孝

9月 9日〔水〕19:00 甲府キリスト教会（山梨）

9月10日〔木〕14:00,19:00 ガリラヤ丸子町キリスト教会（長野）

9月11日〔金〕19:00 南信州フォレストチャーチ（長野）

9月12日〔土〕10:30 アガペチャーチ土岐チャペル（岐阜）

9月13日〔日〕10:00,13:30 飯田竜丘キリスト教会（長野）

中部地区

講師／平岡修治 ●音楽ゲスト／中村匡

9月20日〔日〕10:30 神の家キリスト教会（愛知）

9月25日〔金〕19:30 豊橋のぞみキリスト教会（愛知）

9月26日〔土〕14:00 ゴスペルハウス静岡（静岡）

9月27日〔日〕10:00 保見キリスト教会（愛知）

9月27日〔日〕15:00 豊田ホープチャペル（愛知）



レポート

関西地区

関西地区で7月22日～26日の5日間7教会で、25日～26日に高砂教会、8月8日～9日に2教会で開催されました。

「7月22日かあ」上條先生より Goto ミッションのお誘いをいただいたのは、平日水曜の日程でした。メンバーの集まりにくい日程です。けれど「舟の反対（右）側に網を打ちなさい」との主の導きをおぼえ、「おことばですので・・・」という思いでお引き受けしました。チラシが届くと、裏面に誘いたい人の名前を書く欄を印刷し、祈り心で当日を迎えるよう教会の皆さんに案内していきました。7月22日午後2時集会スタート。とんでもない猛暑日。こんな日のこんな時間にいったい誰が集まるのやら？しかし集会にはメンバーばかりか、求道者の方や新来会者も集まってきました。安武さんのサクソ演奏、田中先生のメッセージ、御霊にある平安が集会を満たしました。常識をちょっとばかり打ち破り、ほんの少し信仰を働かせただけですが、そこに思いを超えた天からの祝福が注がれたことを主に感謝します。

西宮福音教会牧師 檜垣正裕

8月9日、奈良県生駒市のカリスチャペル白庭台に、平岡修治師、石塚誠孝氏、音響担当の岩井寛氏がお越しくださり開催されました。事前に素敵なチラシ、招待状も作ってくださり、近隣にチラシを配り、家族、友人、知人を誘い、期待して祈りました。初めに石塚師の素晴らしい歌声でみんなの心を捉え、お証とマッチして、主の素晴らしさが届けられました。「信仰生活の中で聞いた賛美が一番感動しました。本当に心に響きました。」と話す人もいました。平岡先生のメッセージは、とても楽しく、テンポよく、笑いあり、涙あり、福音の真髄をわかりやすくお伝えくださいました！当日来られた8名の未信者の方々も皆大変感動され、喜びに満たされて「教会は、めっちゃええとこや！」とわかってくださったようです。教会メンバーみんなも心が解放されて、元気が与えられました。闘病中の方も「私のいのちも5年程伸びたと思います。」と。素晴らしい伝道のお働きを心から感謝しています。

カリスチャペル白庭台副牧師 村上裕和子



安武玄晃（サクソ）

田中達（メッセージ）



石塚誠孝（ヴォーカル）

平岡修治（メッセージ）



7/22@ 西宮福音教会

7/23@ 奈良西ライフチャーチ

7/24@ あやめ池キリスト教会

7/25@ 三田ホーリーチャペル

7/25@ 広畑キリスト教会

7/25@ 高砂教会

7/26@ 高砂教会

7/26@ 大泉キリスト教会

7/26@ アドラムキリスト教会

8/8@ 相生めぐみキリスト教会

8/9@ カリスチャペル白庭台



2026.9 Schedule

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
30 ニュース 9月号発行日 関東地区 平岡修治 関真哉	31	1	2	3	4	5 戦略的 とりなしと 異文化理解 9月
6	7 Zoom de フエロックス ワカモノ 20:00	8 Zoom de フエロックス 韓国語 20:00	9 Go to Mission 2026 甲信地区 小山健 石塚誠孝			
13 Go to Mission 2026 甲信地区	14 Zoom de フエロックス Zoom de 祈禱会 20:00	15	16	17 Pray for Revival 10:00 岡本信弘 中村匡	18	19
20 ニュース 10月号発行日 Go to Mission 2026 中部地区 平岡修治 中村匡	21	22 Zoom de フエロックス 神学校 OB 20:00	23 WWW 15:00 小山健 @岐阜純福音教会	24 Zoom de フエロックス ブッククラブ 20:00	25 Go to Mission 2026 中部地区 平岡修治 中村匡	26
27 Go to Mission 2026 中部地区	28 Expose The Strategy Special Lecture 霊的戦い専門課程 vol.1	29	30 Go to Mission 2026 四国地区 滝元順 安武玄晃			

残暑厳しい日が続いております。日頃よりリバイバルミッションの働きを覚え、お祈りとご支援をいただき、心より感謝申し上げます。6月度の会計はプラスとなりましたが、今年に入ってから累積赤字や活動に伴う諸経費が重なり、財政状況は非常に厳しい状態です。毎月の支払いも容易ではなく、資金がショートしてしまいかねない状況で、講師、ゲスト、スタッフへの奉仕料を捻出することも難しくなっています。そのような中でも皆さまのお祈りと尊いご献金によって、宣教の働きを続けることができています。主が必要を備えてくださることを信じ、福音を届ける使命を果たしてまいります。どうぞこの現状を覚えてお祈りくださり、ご支援を賜れましたら幸いです。皆さまの献金が宣教を前進させる大きな力となっています。主が必要のすべてを備えてくださいますように。

●献金送付先.....
三菱UFJ銀行 / 名古屋営業部 普通 2569313
ゆうちょ銀行 / 振替口座 00860-0-33814
クレジットカードによる献金 <http://j-revival.com/rm/card/>



●会計報告2026年6月

収 入		支 出	
一般献金	2,426,330	事務運営管理費	1,022,285
集会献金・参加費	0	一般旅費交通費	10,140
国内宣教指定・集会献金	1,303,801	通信費	156,590
世界宣教指定・集会献金	10,000	印刷費	182,105
霊的戦いセミナー・献金・参加費	100,900	国内宣教諸経費	1,515,911
		霊的戦いセミナー諸経費	59,376
		集会諸経費	235,800
		世界宣教諸経費	96,069
		銀行借入返済	351,989
収入合計	3,841,031	支出合計	3,630,265
		当月差額(6月)	210,766

クレジットカードでも献金出来ます。



Revival Mission
リバイバルミッション

フリーダイヤル 0120-291-372
〒441-1307 愛知県新城市富沢407-1
TEL.0536-23-6712 FAX.0536-23-6220
✉office@j-revival.com
ホームページ <http://www.j-revival.com>

※次回ニュースPlus10月号 (vol.27) は
9月20日(日)発行予定です。



リバイバルミッション情報
祈りのLINE登録してお祈りください!



リバイバルミッションのホットな情報と祈りのリクエスト、集会の様子などを配信します!
◎友だち登録方法・・・「友だち追加」からQRコードリーダーにてQRコードを読み込んで登録



それぞれフォロー、登録して下さい。
Facebook, Instagram, X, YouTubeのアカウントがあります。

